

茅ヶ崎セントラルクリニック

福島 香織(看護部 副主任 / 看護師)

功 績	看護助手が半減する中、火木土の「通し勤務配置」を午前午後各1名減のシフトに再設計し、看護部内の合意形成と試行を主導した功績。通し勤務の廃止により月約20時間の残業削減を見込み、筋肉質な運営体制づくりに貢献した。
推薦者氏名	野口伸一(事務長)
推薦理由	透析導入患者数の減少と高齢化が予想される環境下でより筋肉質な経営が求められる中、福島副主任は合理的な思考に基づき、看護助手の業務内容と各人の特徴を的確に把握したうえで配置改革を進めた。現場の抵抗にも配慮しながら合意形成を図り、残業削減と安定運営の両立に貢献した点を高く評価し、理事長賞に推薦します。

内 容

当院では5月に看護助手1名が個人事情で退職し、かつて8名体制であった看護助手が4名体制となった。従来は火・木・土に助手を午前3名、午後2名配置していたが、人員減少下で同じ運用を続ければ助手の残業増が避けられない状況であった。

福島副主任は、看護部長・主任とともに約1か月かけて現場確認、助手へのヒアリング、業務の試行、振り返りを重ね、助手業務の一部を看護師が柔軟にフォローする体制を整えた。そのうえで火・木・土の助手配置をAM2名・PM1名へ見直し、通し勤務を基本的に廃止する運用へ移行した。

助手側には従来手順や人員配置への固執や心理的抵抗もあったが、昨年末から進めてきた患者配置の集約、鉗子洗浄本数の削減など既に実施していた効率化の効果を踏まえ、安全に運用できることを丁寧に説明しながら合意形成を進めた。

単なる人員削減ではなく、限られた人員で必要な助手業務を維持するため、看護部全体で業務を引き取り、コミュニケーションを重ねながら改善を進めている点に意義がある。結果として1名減となった助手全体で月約20時間の残業削減が見込まれ、人員に依存し過ぎない看護部運営の効率化を実現した。